

【実施概要】 期間：2019年10月5日（土）11:00～21:00、6日（日）10:00～16:00

【テーマ・目的】

■**テーマ**：小さくても居心地の良い、日常的に利用して時間を過ごしたくなる小広場

■**目的**：修復型まちづくりでイメージされる将来像ではヒューマンスケールな広場空間の創出も重要な構成要素として期待される。小さくても魅力あるパブリック空間の創出について、市民の新たな空間体験の機会をつくることを目的とする。

■**空間デザインのポイント**

- ・ 休息やおしゃべり、読書など、パブリック空間で小さくても多様なアクティビティを生み出す
- ・ イス・テーブル等のほか、人工芝や植栽等により潤いの要素を加えた滞留空間を創出することを重視する
- ・ 加えて、空間を分節化できる仕器を導入できるとさらに高い効果が期待できる

■**さらなる効果を生み出すためのポイント**

地元店舗による仮設店舗での販売や、図書館からの本の貸与によるライブラリーの設置など、滞留のきっかけとなるコンテンツの導入し、空間の居心地の向上につなげる

■**期待される利用方法**

- ・ 区画や時間帯を区切って活動や発表の場として提供
（市民による活用や学生等の参加も受け入れ可能／西側の駐車部分）
- ・ 時間帯によって異なる空間利用や活用を促進

ランド駐車場

【10/5（土）】

●**歩道状空地状の滞留空間**

：植栽・人工芝+木製テーブル・スツール
※駐車場の跳ね上がり機械～道路

●**地元有志による JAZZ ライブ（夜）**

【10/6（日）】

●**地元店舗による飲食物の販売・WS**

→抹茶ドリンク、コーヒー、メンチカツ、WS
：タイニースタンド（3台）

●**地元有志によるファミコン大会**



カネモリ駐車場

※道路の通行止めのタイミングと合わせて展開

●**青年会による屋台+座り場（10/5 ± 16時～）**

：タイニースタンド屋台（青年会）、
タイニースタンド+スツール+照明



道路

●**夜の座り場（10/5 ± 16時～）**

：ソファ、ローチェア等、昨年度のレイアウトを踏襲（規模は縮小）

交番バイク出勤用
スペースの確保

緊急車両通行帯（3.0m）の確保



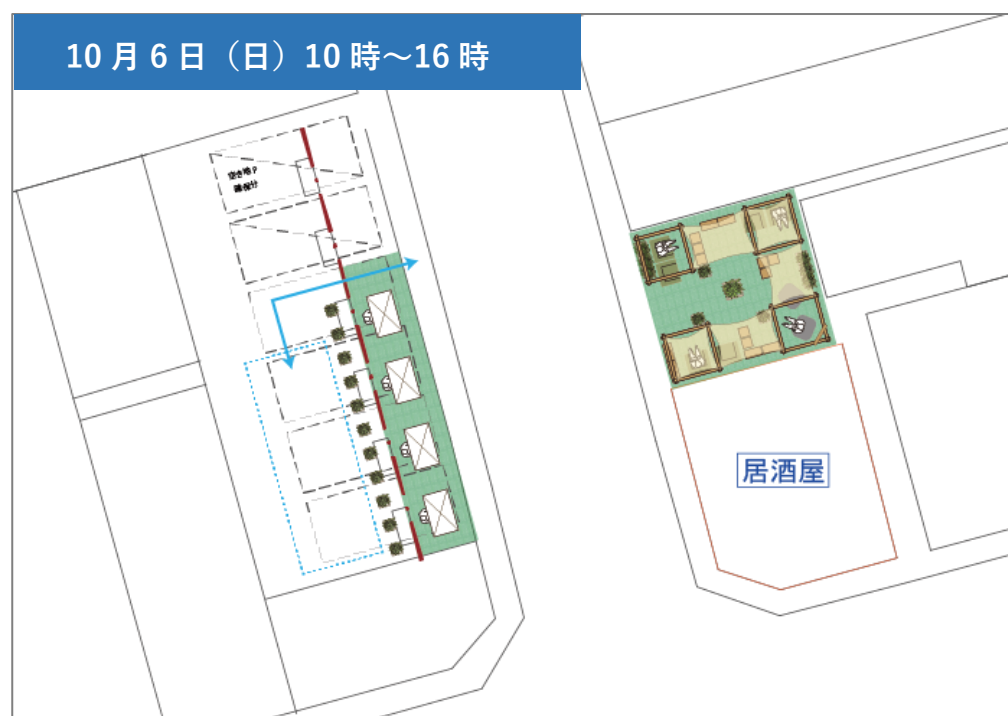
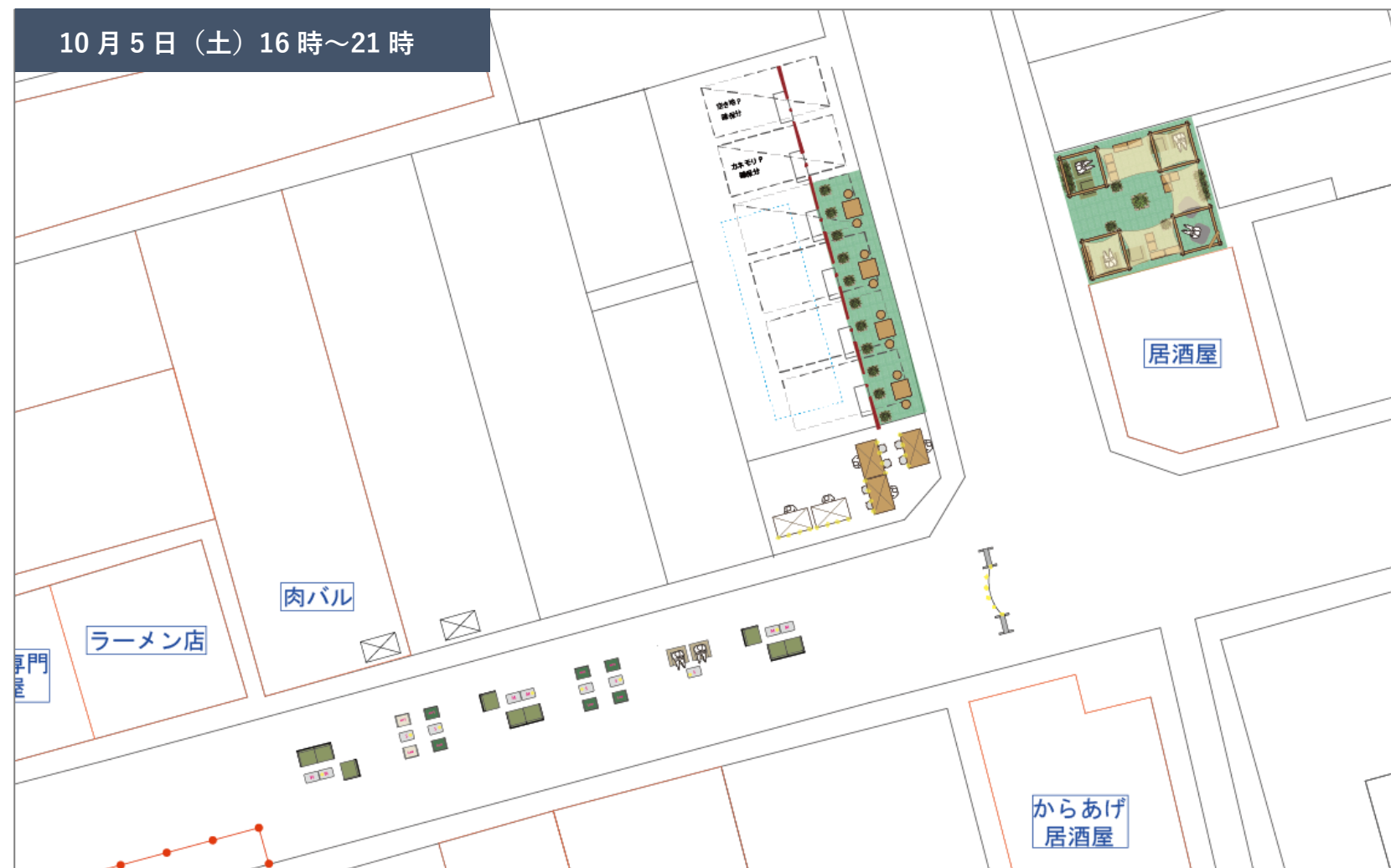
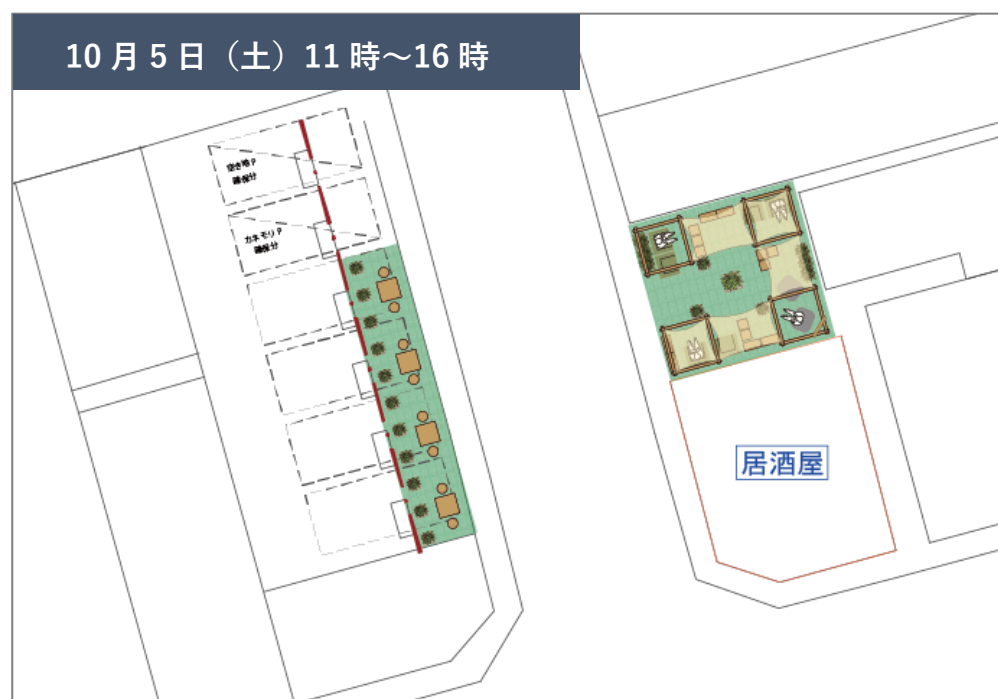
空き地

●**本をコンテンツにした小広場**

：人工芝+モクタンカン+タープ
+ソファ+本棚



【日・時間帯によってレイアウトを変化】



(1) 来場者アンケート - 実証実験について

■実施概要

目的：伏見町内における公共空間活用実証実験に対する来場者等の評価や満足度を把握し、今後の伏見町におけるまちづくりの指針とする。

- ・機能や空間等に関するニーズの把握
- ・イベントによる集客を通じた伏見町のポテンシャル確認
- ・市民に対する伏見町の認知度向上

実施期間：2019年10月5日（土）～6日（日）

調査対象：伏見町内における公共空間活用実証実験の来場者、来街者

調査方法：アンケート調査票をもとに、調査員によるヒアリングの実施、卓上アンケートの設置

回収結果：162件

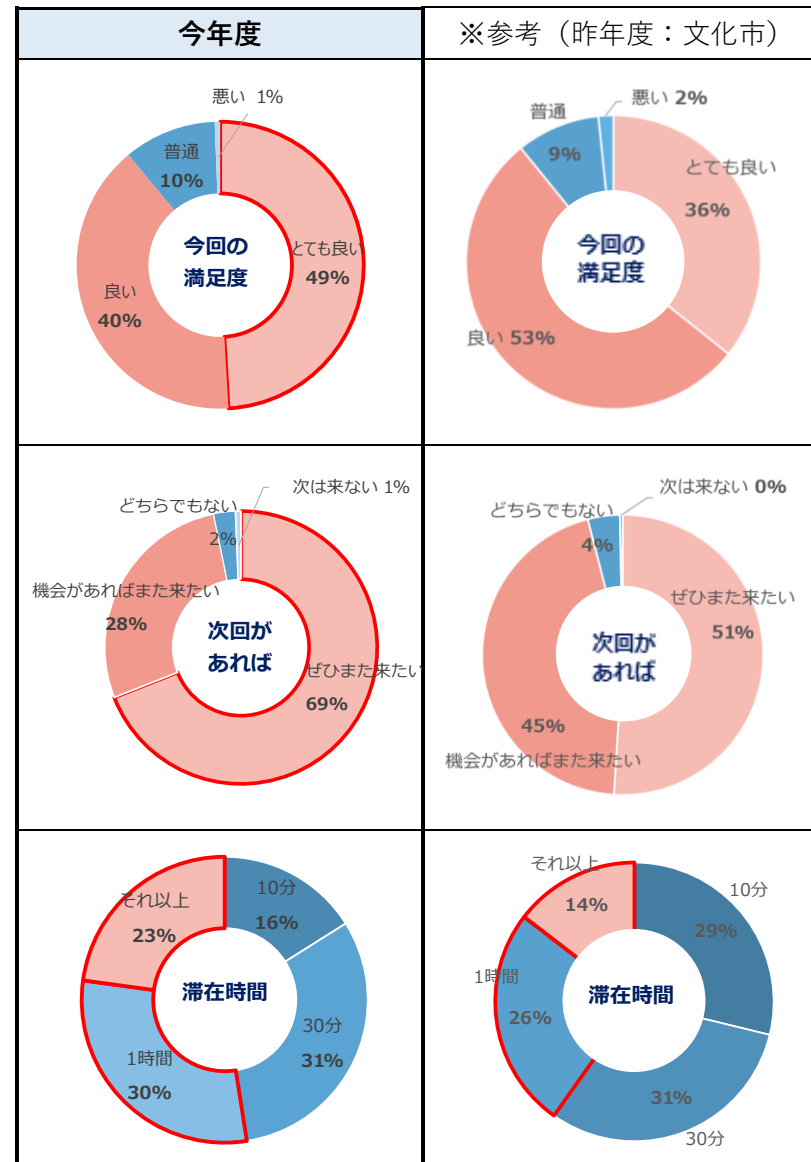
■結果概要

- ・実証実験の当日は天候に恵まれたほか、周辺イベント等の実施とかさなったこともあり、多くの方が来場するなか、**アンケート調査では高い満足度が得られる結果（9割以上が肯定的）**となった。
- ・昨年度に比べて「とても良い」が増加（**36%→49%**）

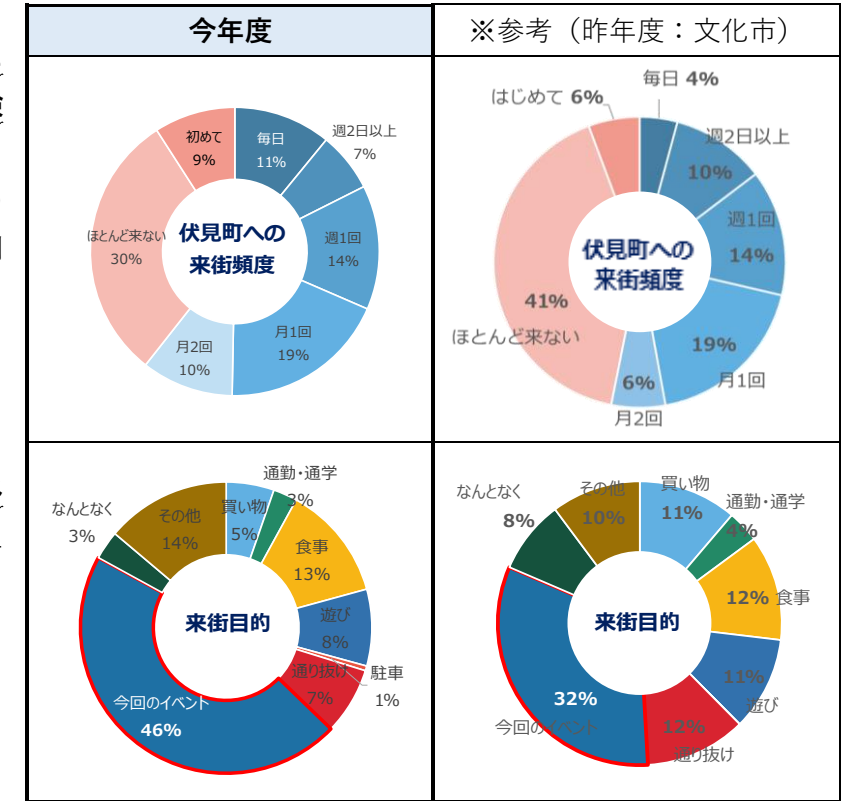
- ・また、同様に、次回があれば「ぜひまた来たい」と回答する割合も昨年度に比べて高くなった。（**51%→69%**）

- ・「機会があればまた来たいと合わせて」**97%がまた来たい**と回答している。

- ・特に顕著な傾向としては、滞在時間であり、昨年度「30分以下」の短時間利用が約6割を占めていたが、今年は「**1時間以上**」が**5割以上**となり、特に「それ以上（1時間以上）」の**長時間の滞在が非常に増えた結果**となった。これは、今回のコンテンツとして、人工芝とソファを使い“まちのリビング”に見立ててよりくつろげる空間とした結果と考えられる。



- ・伏見町への来街頻度は、**普段は伏見町にこない人の来場が4割程度と、実証実験による集客の効果が表れている。**
- ・一方、昨年度より定期的に来ている人の割合が高くなり（特に毎日訪れる人の割合）、リノベーションによるまちづくりの進展も影響している可能性がある。
- ・昨年度との比較における顕著な傾向としては、**伏見町に来た目的を「今回のイベント」とした方が増加し、認知度の向上がうかがえた。**



(2) 来場者アンケート - 伏見町で見た未来の光景について

■実施概要

卓上にて写真13枚を使った投票制のアンケートを実施。約70名の参加（212票の投票）があった。

■結果概要

（得票上位）

※昨年度と傾向はほぼ変わらず





令和元年（2019）12月17日

株式会社フューレック

株式会社築切家守舎

独立行政法人都市再生機構西日本支社

UR都市機構と民間まちづくり会社との連携によるリノベーションまちづくり事業 第1号案件！

宿泊施設 AREA INN FUSHIMICHO 2-8 オープン！

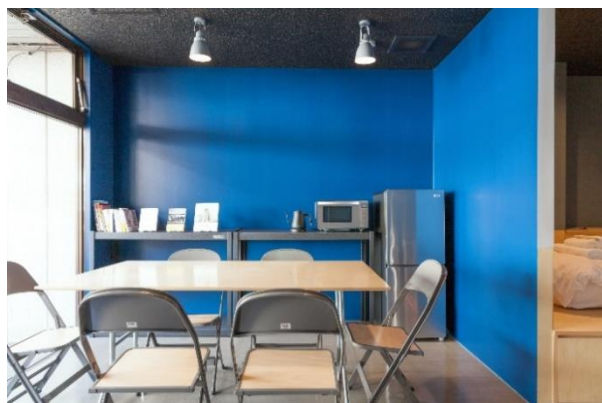
～UR都市機構 民間リノベーション事業支援(広島県福山市)～

独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）は、広島県福山市福山駅前において、福山市が進めるリノベーションまちづくりに対する支援を実施しています。

その支援の一環として、2019年3月にUR都市機構が福山市伏見町地区の土地を取得し、株式会社築切家守舎（築切家守舎）※と連携している株式会社フューレック（フューレック）が建物を取得の上、リノベーションを実施しています。

この度、建物のリノベーション第1弾として、宿泊施設「AREA INN FUSHIMICHO 2-8」が12月12日（木）にオープンいたしましたのでお知らせします。

※地主と事業者をつなぎ、リノベーション事業の推進役を担うまちづくり会社



「AREA INN FUSHIMICHO」は、福山市伏見町全体をひとつの「宿」と見立てた「まちやど」で、泊まる、食べる、くつろぐ、学ぶ、遊ぶ、さまざまな要素がまちのなかに散りばめられています。「AREA INN FUSHIMICHO2-8」は福山市伏見町における「まちやど」の一つとしてオープンした宿泊施設です。

【お問い合わせ先】

UR都市機構 西日本支社

都市再生業務部 中国まちづくり支援事務所（賀満田）

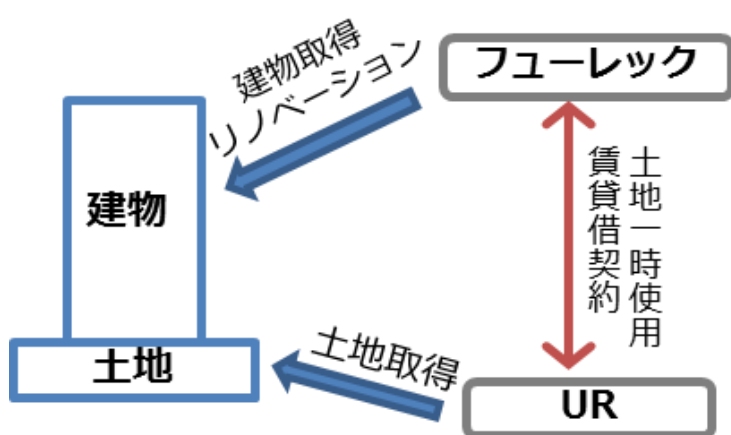
TEL：082-568-8951

総務部 総務課（歌川）

TEL：06-6969-9008

◆事業支援概要

当地区におけるUR都市機構の民間リノベーション事業支援は、土地・建物両方の処分意向のある不動産に対して、UR都市機構は底地を取得、建物はリノベーションを行う民間企業が取得し、リノベーションを実施するといった仕組みです。公的デベロッパーとして、長期的なまちづくりを実施できるUR都市機構の強みを活かし、底地をUR都市機構が取得することで、民間企業のリスクを抑え、リノベーションが実施できる土台をつくりました。



民間リノベーション事業支援の仕組み



リノベーション物件の外観

◆取組みの背景

上記の取り組みのほか、UR都市機構は福山市において、「居心地がよく歩きたくなるまちなか」を目指した社会実験や市のパーク PFI 実現に向けた支援などの新たな取り組みを「MACHI Re P (まちリプ)」と名付けて実施しています。

「MACHI Re P (まちリプ)」とは「MACHI RENOVATION PLATFORM」の略称です。「まちのリノベーションの土台づくり」を目指し、うまく活用されていない魅力が小さくなったまちを、再び人を惹きつける魅力あふれるまちへと変えるための仕組みづくりやその土台となるような支援を実施しています。「MACHI Re P (まちリプ)」は、福山市で初めて取組む試みですが、今後とも福山市で先駆的な取り組みを続け、得られた知見を全国の都市に広げていきたいと考えています。

【参考】

AREA INN FUSHIMICHO FUKUYAMA CASTLE SIDE H P: <https://areainn.jp/fushimicho/>